

彦根長浜地域連携協議会 「共同SD研修会」 参加者アンケート

令和元(2019)年9月  
滋賀文教短期大学

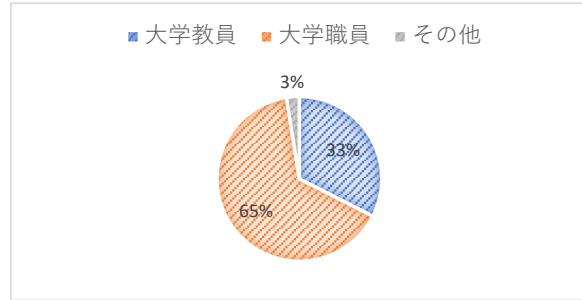
Q 1 参加者の職制について

①大学教員 ②大学職員 ③その他 ( )

|       |     |     |    |
|-------|-----|-----|----|
| 人数    | 13人 | 26人 | 1人 |
| パーセント | 33% | 65% | 3% |

|      |     |
|------|-----|
| 回答人数 | 40名 |
|------|-----|

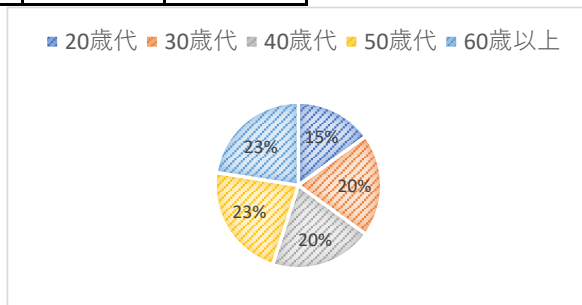
\*その他⇒公務員



Q 2 参加者の年齢について

①20歳代 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代 ⑤60歳以上

|       |     |     |     |     |     |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 人数    | 6人  | 8人  | 8人  | 9人  | 9人  |
| パーセント | 15% | 20% | 20% | 23% | 23% |



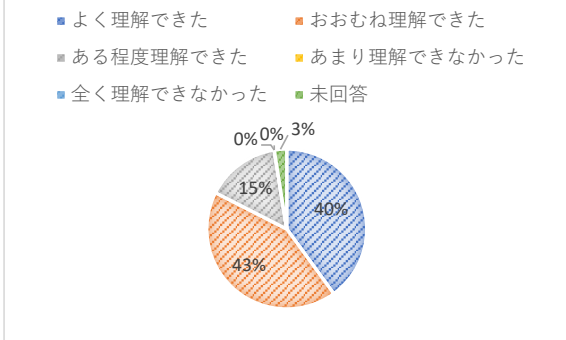
Q 3 本日の各内容の理解度をお聞かせください。

①よく理解できた ②おおむね理解できた ③ある程度理解できた  
④あまり理解できなかった ⑤全く理解できなかった ⑥未回答

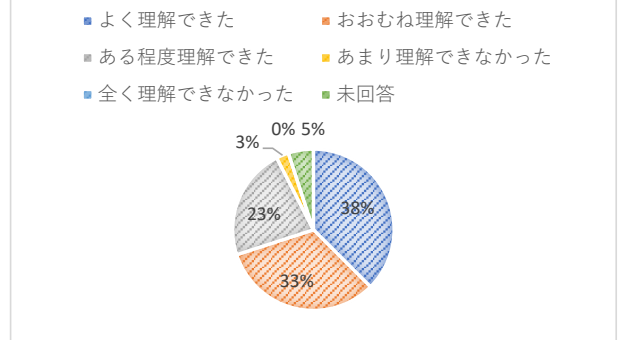
- (1) 大学と地域との連携 (導入・先駆例)
- (2) リアルとネットを組み合わせた連携「浜西南大学まち」
- (3) チームで取り組む大学・地域連携「西南まちづくりラボ」
- (4) 学生が得ること、地域が得ること
- (5) 地方大学が地域と関わる際の課題

| 項目  | 人数    | よく理解できた | おおむね理解できた | ある程度理解できた | あまり理解できなかった | 全く理解できなかった | 未回答 |
|-----|-------|---------|-----------|-----------|-------------|------------|-----|
| (1) | 16    | 17      | 6         | 0         | 0           | 1          |     |
|     | パーセント | 40%     | 43%       | 15%       | 0%          | 0%         | 1%  |
| (2) | 15    | 13      | 9         | 1         | 0           | 2          |     |
|     | パーセント | 38%     | 33%       | 23%       | 3%          | 0%         | 5%  |
| (3) | 22    | 11      | 7         | 0         | 0           | 0          |     |
|     | パーセント | 55%     | 28%       | 18%       | 0%          | 0%         | 0%  |
| (4) | 21    | 13      | 5         | 1         | 0           | 0          |     |
|     | パーセント | 53%     | 33%       | 13%       | 3%          | 0%         | 0%  |
| (5) | 8     | 11      | 10        | 7         | 0           | 4          |     |
|     | パーセント | 20%     | 28%       | 25%       | 18%         | 0%         | 10% |

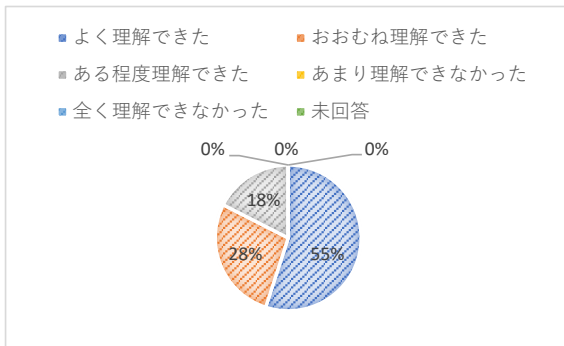
(1)



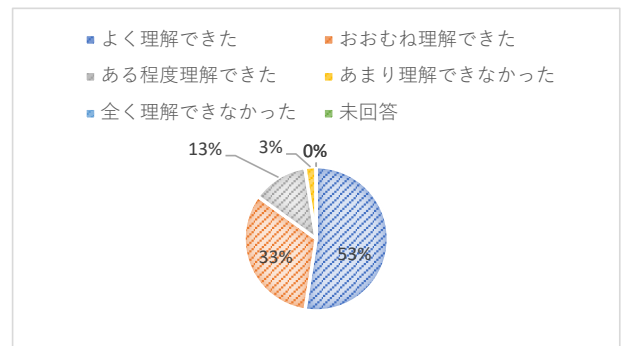
(2)



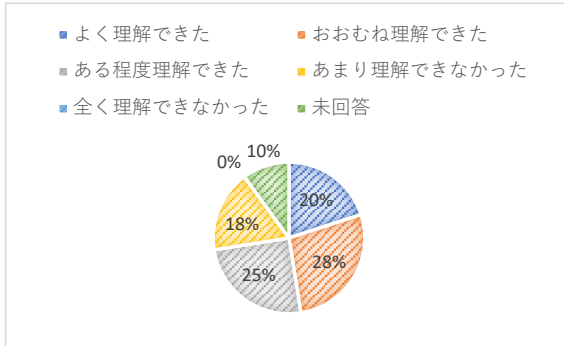
(3)



(4)



(5)



Q 4 本日の内容で、特に印象に残るフレーズや参考になった点があれば、自由に記載ください。

- ・学生と大人・地域をつなぐ ・発表の場、機会が必要 学生主体であること
- ・学生は地域のこどもと大人をつなぐ ・座学と実践のミックス
- ・学生自身が考え動けるようにするため、学生に全てをまかせ、見守る姿勢が印象的でした。
- ・学生の力を上手く活用して、地域の活性化に大学が貢献している
- ・「歩いて通える地域連携」というフレーズが印象に残りました。学生が地域連携に興味をもつきっかけになるような活動を多く提示できれば、と思いました。 ・おやしサミット
- ・大学から、日本全国に世界に出ることにより学生は成長する。外に出ることによって見方がわかる。
- ・西南大学に来た学生が、「福岡に就職したい」と言ってくれる子というのは大変魅力的に感じた。彦根・長浜地域にもスバラしい魅力が多くあり、これらの魅力をPRし、地域の活性化につながれば良い。
- ・学生が「やりたいことをサポート」というフレーズ。学生の自主性・活動の枠が広く、自由。短期大学では難しいことも多いように思う。 ・外へ出て違う視点を身に着けることが大事
- ・連携したい所につながりたいことをダイレクトに学生から直にすながりたい、やりたい理由を伝えるように伝えてつながりが生まれていくこと。学生のフットワークを大切にたくさんのつながりが生まれていると感じました。主体となる学生を大切に見守られていると印象にのこりました。
- ・地域連携って意味あるの？何をしても実践報告 他の活動を聞く報告しあうことでやりたくなる。自分のことを発表。相手の発表を聞くこれこそ大事。ゼミ⇒粋をこえて集まる。粋をこえた地域活動は魅力だがそこまで学生の意識が低い。 ・地域が引き継いでいく
- ・大学での学びが、西南まちづくりラボを通して地域に発信されるかたちがあるのは、とても参考になる取り組みでした。 ・熱心さが伝わり全て良かったと思います
- ・「一度の失敗で止めてしまわないこと！！」 ・「学生が得ること、地域が得ること」
- ・学生がやりたいことをとにかくチャレンジする地域連携のやり方がとても印象に残りました（←何よりも小出先生が一番楽しそうな気がしたのは私だけでしょうか？）先生が自腹を切られているという話でしたが、大学や自治体のサポートがどのくらい得られて（または自ら稼ぎ出して）運営されているのがとても気になりました。（これだけの取り組みだと、正直多くの費用が発生していると思われたので）
- ・学生が自分がやっていることの意味を、他者（地域学）との交流によって確認できる。～による情報発信の重要性 地域を大学が呼び込む
- ・おやじの会 ・拠点にいつも人がいる ・学生がやりたいことができる
- ・学生さんが作った「学生と地域は何を得るのか？」の資料 ・ネット・リアル構造
- ・全国まちづくりカレッジや地域課題解決フォーラム
- ・他の学部や、他大学の学生、地域の方と関わることで、「自分たちの活動にどんな意味があるか」がわかるし、どんどん成長していく

Q 5 彦根長浜地域連携協議会の「共同SD研修会」で、今後取り組むべき課題（テーマ）や推薦する講師がありましたら、自由に記載ください。

- ・アクティブラーニングの実践例 ・高等教育論 組織論
- ・外部資金を獲得するためのとりくみ的な講座ができれば…（科研費、自治体、独法法人、etc）
- ・様々な部署のメンバーがかかわれる、分科会のようなものがあれば
- ・シェアリングエコノミー（石山アンジュさん（内閣官房シェアリングエコノミー伝道師））